

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-09 バイオマスエネルギー回収施設整備事業				ザイムスコード及び個別事業名				
	□支援部門				1384	バイオマスエネルギー回収施設整備事業			
主管課	環境施設課		関連課	環境部各課、都市整備部各課					
分野名	生活環境								
目標 (目標値)	一般廃棄物に含まれる厨芥類(生ごみ)及び下水汚泥を集約処理し、エネルギーを回収する施設の整備。								
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考					
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯						
運営資源 状況	決算値	43,540千円	—	20年度までは「08 広域化計画の推 進」					
	(国・県)	0千円	—						
	(負担金等)	0千円	—						
	(一般財源)	43,540千円	—						
	人員配置数	2.0人	—						
	人件費	18,189千円	—						
	協働の パートナー								
事務事業 運営経費	総事業費	61,729千円	—	20年度					
	市民1人当 りの経費	349円	—				21年度	推進	推進
	対象者1人 当りの経費						22年度	推進	
ベンチマーク (県内外自治 体や民間団体 との比較値)	団体名					23年度	推進		
						最終年度 (28年度)	施設稼動		
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・逗子市とは、焼却施設の広域整備に向けた覚書の見直しについての協議が進まない状況の中で、平成20年度末に逗子市から焼却施設についても最低10年間の延命化措置を行う旨が表明されたことから、焼却施設の広域整備は当分の間見込めないこととなり、その対応が求められている。 ・山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設整備に向け、地元住民のご理解を得ていく必要がある。							
	創意・工夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・焼却ごみの処理については、生活環境整備審議会の提言を踏まえ、本事業施設の稼動を前提とし、名越クリーンセンターを延命化する方針が決定された。逗子市とは今後の広域整備に向けた確認書を締結した。 ・庁内横断的な整備プロジェクトを設置し、基本構想と基本計画策定調査等の業務を進めた。							
	未解決の課題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設整備を推進していくため、周辺住民をはじめとした市民説明会を行う必要がある。 ・分別収集、運搬を含めた具体的な方法や経費の概算について検討する必要がある。 ・事業の実施に向け県との調整を進める必要がある。							
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・整備基本計画等をもとに山崎浄化センター連絡協議会をはじめ市民の理解を求めていく。 ・山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設整備を推進していくため、22年度事業である生活環境影響調査及び都市計画決定・下水道事業認可変更手続を進める。 ・分別収集、運搬を含めた具体的な方法や経費の概算についてさらなる検討を進める。 ・一般廃棄物処理施設の設置届出等について、引き続き県との調整を進める。							
一次評価(課長評価)				二次評価(部長評価)					
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了									
評価結果	改善の必要性	循環型社会の形成と地球温暖化対策に寄与する山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の整備について積極的に取り組んでいく。			評価結果	改善の必要性	本市の廃棄物行政の基本理念に沿って、今後の一般廃棄物処理施設の再編整備の鍵となる本事業を進めていく。		
A	有				A	有			
課長名		柿崎 雅之			部名・部長名		環境部 相澤 千香子		